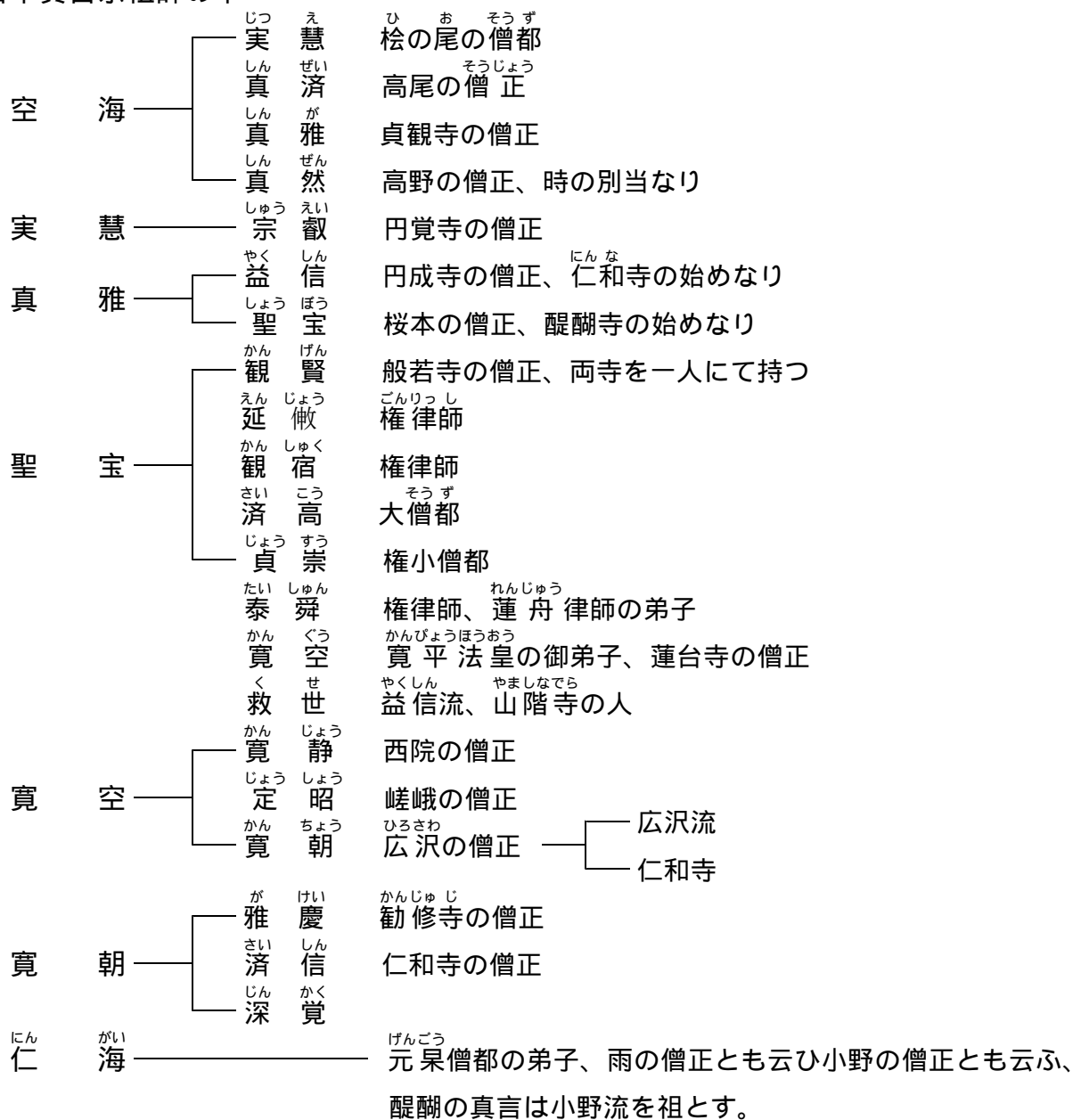


日本真言宗祖師の下



仏法伝来記一巻 信教作に「弘法大師帰朝の後真言宗を立てんと欲す。諸宗朝廷に群集して即身成仏の義を疑ふ。大師智拳の印を結びて南方に向かふ。面門俄かに開けて金色の毘盧遮那と成り、即便本体に還帰す。入我我入の争ひ即身頓証の疑ひ、此の日釈然たり。真言瑜伽の宗、秘密曼荼羅の道、是の時より而も建立す」文。孔雀経の音義の序に「此の時諸宗の学徒大師に歸し、始めて真言を信じ請益し習学す。三論の道昌、法相の源仁、華嚴の道雄、天台の円澄等皆其の類なり」孔雀経音義真 濟の記なり。

大師伝に云はく「帰朝舟を泛かぶるの日発願して云はく、我が学ぶ所の教法若し感応

の地^{ところ}有らば此の三鉢^{さんこ}其の処に至るべしと。仍^よつて日本の方に向かひ三鉢^なを抛^なげ上げた
まふ。遙かに飛んで雲に入る。十月に帰朝す」と。又云はく「高野山^{にゅうじょう}に入^し定の所を占
む。乃至彼の海上の三鉢今新たに此に在り」と。

金剛頂經^{しよ}の疏に云はく慈覺^{びるしゃな}「毘盧遮那經に云はく、我昔道場に坐して四魔^{ごうぶく}を降伏すと。
此を以て知ることを得、毘盧遮那仏不久現証と云ふと雖も、而も成仏以来^{はなは}甚だ大いに
久遠なることを」と。又云はく「彼の法華久遠の成仏は只^{ただ}此の經の毘盧遮那仏なり、異解^{いげ}
すべからず」と。

教時義の四に云はく安^な然^{ただ}の釈、弘法を破^なするの文なり「但し此の文の中に法華を判じて略説と為すことは唯
理を説けばなり。故に知んぬ、真言教を広説と為すことは、広説とは事理を説けばなり」
と。

秘藏宝鑰^{ひぞうほうやく}の中に云はく「謗人謗法は定めて阿鼻獄に墮して更に出づる期無し。世人此
の義を知らず。舌に任せて輒^{たやす}く談じ深害^{かえり}を顧^{むし}みず。寧ろ日夜に十悪・五逆を作るべく
も一言一語も人法を謗^{そし}るべからず」と。又云はく「師の曰く、菩薩の用心は慈悲を以て
本と為し、利他を以て先と為す。能く斯^{よこ}の心に住して浅執を破し深教に入る利益^{もつと}尤も
広し。若し名利^{みょうり}の心を挟^{さしはさ}みて浅教に執して深法を破すれば斯^{とが}の尤^{まぬか}を免れず」と。

教王經の開題に云はく「金剛頂經及び大日經は、並びに是^{りゅうみょう}竜猛菩薩南天の鉄塔の中
より誦^{じゆ}し出だす所なり」と。

不空三蔵の要決に云はく「其の大經本は阿闍梨^{あじゃり}の云はく、經帙^{ちつ}広長にして床^{ゆか}の如し。
厚さ四五尺、無量の頌有り。南天竺界の鉄塔の中に在り」と。

付法伝に云はく「鉄塔^{これ}は是人功の所造に非ず。如来神力の所造なり」と。

大日經に云はく「大日遍照尊^{みじん}微塵衆生と為りて八相示現を成し、衆生と同じく受苦す」
文。

日 蓮 花 押